



通算第55号

1964~65-6-9

函館北ロータリークラブ

第50回例会

例会場 明治生命館

例会日 毎週水曜日

1230~1330

本日のプログラム

川釣りのお話、日本つり三味会 会長 中島 溪風氏

- ※ 司会 新会長 ※ 斉唱 “我等の生業”
- ※ ゲスト 大江敏美氏 渡辺音次郎氏
- ※ ビジター 松本恒一君(札幌東R.C. 化学肥料販売)
谷 義一君(森R.C. 電気工事)
板垣雄二君他14名(函館R.C.)
戸田国雄他8名(函館東R.C.)

※ 会長報告

1. R.I.本部の東半球クラブサービス部長ウオーレン・マシューズ氏より書簡が参りました。'寿原ガバナーが我々のクラブを訪問したことについて書かれています。(回覧)
2. 東クラブ渡辺綱彦会員から、アトランチック・シチーより通信がありました。ポストンをまわり、16日羽田着の由です。又同氏より先日のチャーター・ナイトに祝電をいただきながら、当日披露するのを忘れて申し訳ありません。ニコニコ・ボックスということでお許し願います。
3. 大江先生を御紹介します。同氏のスケジュールを印刷配布しましたので御覧願います。

※ 幹事報告

1. 新年度の各委員会の委員長が決定しましたのでよろしくお願い致します。
2. 次の例会日(16日)午後6時よりアツセンブリーを行ないます。新旧委員長の引継が行なわれます。

※ スピーチ “入種差別” 札幌アメリカ文化センター 参与 大江敏美氏
人種差別問題は人類社会において古くして新しい問題であります。人種差別の起こる根本原因の一つは、既存勢力が新興勢力を押さえて自己の安泰をはかろうとする種族防衛的な本能にあると見られています。例えばアメリカにおいては、明治初年から日本人がカリフォルニア州に移民としてまいりましたが、明治末から大正、昭和にかけて白人社会から排斥された時期がありました。日本の移民は日曜も祭日もなく、朝早くから夜遅くまで、家族総動員で働き、低

バスの中ではガイド嬢がこれ又腕ならぬ咽喉にヨリをかけての大奮闘。お客を十分堪能させた様子で、「ソーラン節」が出る頃には一同手拍子でこれに和する風景もみられました。函館山は風がやゝ強く、少し曇つていて、青森方面の展望がみられず残念でした。又五稜郭の桜も蕾の状態、逆に桜子嬢であるミス・ワガワガが観光されるシーンもあり、新聞で紹介されたので覚えていた市民もあつたようです。「五稜郭タワーにのぼりたい」との声がありましたが、そこはガイド嬢が「時間の関係で、次の訪れの機会に是非どうぞ」と言うことで、PRを兼ねてピンチを逃がれました。以上観光については先ず先ずの成績。かくして17時45分、無事五島軒に帰着しました。

賃金に甘んじるため、白人にとっては一大脅威となつたのであります。現在はその数は16万人となり、アメリカ社会のルールを守り、高い尊敬を得るに至っております。

現在のアメリカ社会における新興勢力の一つは黒人であり、第二次大戦後のテレビの発達には中産階級の生活を黒人に示し、黒人にその地位を改善しようという自覚をよび起こし、これに黒人牧師の指導性と相まつて、社会革命的な現象が2年前から起こっております。

黒人に限らず白人社会においても、アメリカは人種のるつぼといわれる国であり、世界中の人種が集まつてきております。今年のオリンピックの出場選手が全部アメリカ人という風に想像してもよいわけですが、労働組合の有力なもの、国際婦人衣服労組(組合員40万人)というのがありますが、その機関誌は英語、スペイン語、イタリア語と三種類あります。これは英語で読み書きできない労働者が未だに多いことを物語っています。

黒人が開拓植民地に入るようになったのが350年程前であり、独立宣言をしてから180年程経過しています。先ずイギリスから入植した人々が指導者となつて建国に力があつたのですが、その後飢饉などのためアイルランド、ドイツ、イタリアから大量の移民が入り、更に東洋各地からも入つてゆきました。移民第一代では辛酸の苦勞をなめておりますが、二代、三代と重なるにつれ、子弟に高等教育を与える余裕もできるようになり、社会的、政治的、経済的地位も向上してつております。雑多な人種の集合体としてできた社会はアメリカに限つたことではなく、印度などは2400種族が集まつているともいわれますし、日本などもその昔東南アジアから北アジアに至る地域から移住してきた人種の混合体とみられています。アメリカが世界一の繁栄を築きあげたのは、実力主義が一般に認められ、勤勉創意次第で梯子段をあがることのできるころにあると考えられます。

そういう主流からとり残されたのが黒人でありました。もつとも、国会議員7人、州議員90人などのほか、学界、経済界、スポーツ、芸能界などで多数の黒人が活躍しております。アメリカの総人口1億9千2百万人のうち10.7%の2千万人が黒人ですが、人口の比率通り地位があがつておりません。かえつて、失業者、貧困者、犯罪者などの割合は、黒人2に対し白人1となつております。これはその地位の相対的に低いことを表わしております。

黒人問題は北部と南部では事情が異つています。南部の白人の言い分はこうです。我々は伝統的に温情主義で黒人に接してきた。病気になるれば面倒をみてやるし、飢いことのないよう仕事も与えてきた。白人の子供も黒人の子供も仲良く遊んでいる。北部の白人は表面上奴隷制度はないようであるが、本当の

所白色奴隷である。

失業すれば街頭に投げ出され、病気になるつても面倒を見てくれない。そんな所にいる黒人は白色奴隷よりもなお非道な取り扱いをうけるのだ、と。

北部の白人の言い分は、人間は生まれながら平等であつて、黒人に選挙の機会も与えず、教育も無知文盲に放置しておき、白人優先主義をとつているのは人権に違反している、と。そして、北部から南部に煽動者が入つてきて、平穏な社会をゆすぶつていたため、その煽動者が殺されたとか、黒人の教会が爆破されたとか、ただごとならぬ事態が南部で局部的に起つています。南部の良識ある白人は、時の流れをよく見抜いており、時間をかけて改善してゆこうという態度になつてきております。

仮に函館市の住民の42%が韓国の人であつたとして、従前選挙権が与えられていなかったのに、急に此の度から選挙権を与えるという事態を想像されると、アメリカ南部の社会問題の深刻さがわかりただけだと思います。実際に州によつてはこの比率の黒人人口をもつているところがあります。これまでは、人頭税を課したり、読み書きテストを必要条件としたため、憲法上保障された選挙権が州段階で事実上空文化してしまつておりました。この五月に上院では、そのような妨害は一切してはならないという法案を通し、同種の法案を可決した下院との間に現在調整がなされています。黒人も投票が名実ともできるようになつたことは慶ばしいことでもあります。

民主社会というものは完全無欠のものでなく、イギリスでも今の議会制度をもつまでに900年の歴史をもつております。日本の民主制度は与えられたものとして20年の勉強をしてきたのでありますが、その点では先進的なアメリカの民主制度も幾多の試練を経ており、又経ようとしておりますが、黒人問題もその重要な関門であると思ひます。

最後に附言したいのでありますが、アメリカを旅行して黒人の方とも話し合い、強く感じましたが、日本の社会は黒人混血児に対する態度が大変非情で、ブラジル等に移住を余儀なくされようとしていることです。この点私共も謙虚に自己反省し、アメリカの人権問題にも同情と理解を寄せられたいのであります。

※ 出席報告 (前回分)

会員数29名 当日出席19名

他欠出席5名 計24名(85.71%)

参考:5月月間出席率 81.12%

※ 次回(6月23日)のプログラム 映画